

《入選》

「制服」の基準は？

近江高等学校 三年

辻 杏侑奈 さん

「制服」は私たちにとって、とても身近なものです。制服は様々な場面で着用されます。例えば私たちも今着ている学校での制服、会社や職場で着る制服、軍隊や警察など、ある一定の集団や組織の所属者が着用している制服など、たくさん制服があります。制服は、明治六〇七年頃（一八七二年～一八七三年頃）に「貧富の差なく、学べることの象徴」として日本で採用されました。そんな制服は、「毎日の服装に悩まなくていい」や「公私のけじめがつく」などといったたくさん理由で、「制服は必要だ、便

利だ」という人が多いです。しかし、その必要とされている制服によって悩まされている人もいます。

なぜ制服は「女子はスカート、男子はズボン」というような基準ができるようになったのでしょうか。その誰かが決めた「基準」によって、本当はズボンがほしい、スカートをほきたい、でも周りの目が気になってはけない……という人もいます。私の学校では、女子はズボンとスカートを选べるものの、男子がスカートをほくということはありません。男女差別をなくそうとなっている今の時代、このようなことがおきていてもいいのでしょうか。

私はこの作文を書くにあたって、一つの記事を見つけました。とある中学校で、制服を選ぶときに、「女子はスカート、男子はズボン」とい

う風にするのではなく、「男女共にズボン、オプションとして希望する生徒にはスカートも可」という記事です。

私はその記事を見たときに驚きました。今までに「ズボンを基準」にする学校を見たことがなかったからです。この制度を導入した結果、女子生徒の約四割がズボンをはいて生活していたり、「機会があればスカートをほいてみたい」などと、気軽に制服を選べるようになったそうです。この学校は、「ズボンも」選べるではなく、「スカートも」選べるという基準にしたそうです。私はこの制度について、基準を変えることはむずかしいかもしれませんが、こういうことが、誰もが生活しやすい世界になっていくのではないかなと思います。さらに言えば、スカート・ズボンだけではなく、「ネクタイ・リボン」もそのよう

な基準に変わっていけばいいのになと思いました。

「制服を変える」ということはとても簡単なことではありません。ですが、近い将来このような制度が全国的に広がればいいと思います。